

一般質問

認知症地域支援推進員は講座を受講しなくてもユマニチュードに限らず、「コミュニケーション」の基礎知識や対応方法は習得しています。ご家族応援プロジェクトを推進する中で、必要なのは認知症地域支援推進員からユマニチュードを紹介

問
認知症の方と家族を笑顔にするユマニチュードは、相手に「あなたを大事に思っている」ことを伝えるケア技法で、認知症の方の行動・心理症状の改善や介護者の負担軽減に効果が確認されています。まずは認知症地域支援推進員がユマニチュード認定サポーター講座を受講し、ケア技法を市民へ広く普及してはどうですか。

誰でもできる認知症の方と家族を笑顔にする取組み

坂井美穂
(公明党)



健康相談等でヒアリングフレイルの概念を周知していきます。聴力スクリーニングを実施する考えはありません。

問
難聴は認知症と誤認されたり、社会的孤立になるリスクがあり、早期発見が必要です。ヒアリングフレイルの概念を市民へ普及啓発し、耳鼻咽喉科への受診を促すため、アプリを活用した語音明瞭度の聴力スクリーニングを実施してはどうですか。

介するなど、情報提供の一つとして活用していきます。
高齢難聴者の早期発見と介護・認知症予防への取組み

問
障がい者の活躍機会創出に向けた支援制度と今後の取組みについて伺います。

障がい者の活躍機会創出に向けた支援制度と今後の取組みについて伺います。

既存の制度や支援体制を市民や事業者へ広く周知することで、安心して働ける環境を整えます。また、他自治体の取組みを参考に、市役所全体で情報共有を行い、各部署の事業で障がい者雇用促進につながる取組みを強化します。奨励制度については、現時点で独自制度は設けませんが、厚生労働大臣が認定する「もにす認定制度」の周知や他自治体の取組みを参考に、有効性を調査研究します。

問
障がい者雇用促進に向けた現状と今後の取組みについての見解を伺います。

就労困難者の雇用促進

中村和也
(志民ネット)



現時点では独自の認証制度等は設けず、愛知県の動向を見ながら、就労困難者の雇用促進に向けた啓発に力を入れます。

問
社会的企業であるソーシャルファーム創設支援や認証制度導入についての見解を伺います。

ハローワーク等と連携し、既存の制度や支援体制を市民や事業者へ広く周知することで、安心して働ける環境を整えます。また、他自治体の取組みを参考に、市役所全体で情報共有を行い、各部署の事業で障がい者雇用促進につながる取組みを強化します。奨励制度については、現時点で独自制度は設けませんが、厚生労働大臣が認定する「もにす認定制度」の周知や他自治体の取組みを参考に、有効性を調査研究します。

福祉サービスを利用して一般就労された方の支援として、就労定着支援事業があります。加えて、今年度から半田市社会福祉協議会が愛知県から受託した「知多地域障害者就業・生活支援センター」があり支援を受けられる体制があります。これらの制度を周知していきます。また、オールブリュット展で、出品者の創作意欲を高め、自立につながる芸術活動を支援する企画を検討していきます。

著名な発酵デザイナーの小倉氏がプロデュースする「発酵ツーリズム東海」のメイン会場の一つに半田市が選ばれ、来年5月に発酵の魅力を発信するイベントを催します。また愛知の発酵文化の魅力を発信を目的に行政機関や空港、鉄道会

問
ガストロノミーリズムを推進していますがどのような取組んでいますか。

量より質、高付加価値、満足度を重視した施策に取組みます。また半田運河エリアのまちづくりにつながる観光振興を取組んでいます。

問
市長施政方針では観光施策が示されていますが、今後どのように取組んでいく考えですか。

半田市が進めている観光施策の取組み

竹内功治
(創造みらい半田)



亀崎地区は伝統や歴史だけでなく古民家等を活かした店や旧酒蔵をリノベーションした飲食施設やイベントなどで集客しており、今後は連携を進めていきます。またガストロノミーリズムの取組みについて、観光客だけでなく市民への周知と利用も図っていきます。

問
現在のガストロノミーリズムは半田運河エリアが中心ですが、日本酒の醸造所が2社あり酒蔵や串あさりなどの伝統食から新たな飲食店も展開される亀崎地区などと連携を図る必要がありますか。

社が企画して「愛知発酵食文化振興協議会」が設立され、半田市は幹事として中心的な位置づけとなり広域連携も考えながら取組んでいます。

市政を問う

一般質問 (質問議員が執筆しています)